

峡東地域における保健と医療の現況令和元年度版

1. 地域の特徴

峡東地域は、山梨県のほぼ中央部、甲府盆地の東部に位置し、山梨市、笛吹市、甲州市の3市で構成されます。管内総人口及び出生率は減少し、高齢化率が増加しており、少子高齢化が進行しています。

<表1>

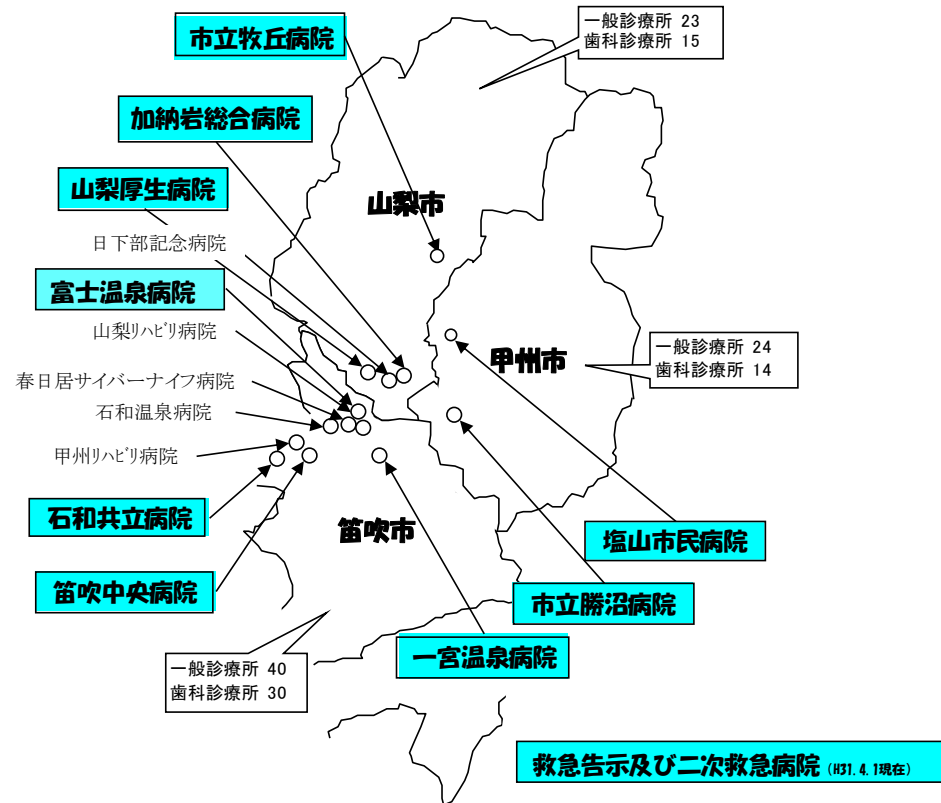
	人口	出生		死亡		高齢化率 (H30)
		数	率(人口千対)	数	率(人口千対)	
山梨市	34,140	192	5.6	477	14.0	32.3
笛吹市	68,212	491	7.2	786	11.5	28.9
甲州市	30,665	167	5.4	528	17.2	34.0
管内	133,017	850	6.4	1,791	13.5	30.9
山梨県	811,000	5,705	7.0	9,678	11.9	29.4

資料:平成29年人口動態統計・平成30年度高齢者福祉基礎調査

2. 地域の医療資源

峡東医療圏内には、病院が14施設、一般診療所が87施設、歯科診療所が59施設あります（H31.4.1時点）。このうち、分娩取扱医療機関は2診療所です。

< 峡東医療圏の主な医療機関 >



<表2>

	①地域災害拠点病院	②在宅療養支援病院	③個人宅への在宅診療を実施している病院・診療所	④個人宅への在宅診療を実施している歯科診療所	⑤個人宅への訪問指導を実施している薬局	⑥訪問看護ステーション
東山梨地区	山梨厚生病院	山梨市立牧丘病院	13か所	18か所	9か所	3か所
笛吹地区	笛吹中央病院	石和共立病院	12か所	12か所	6か所	6か所
		甲州リハビリテーション病院				
圏域	2病院	3病院	25か所	30か所	15か所	9か所

* ①～②はH29.11.1時点の診療報酬設置基準に基づく届け出

* ③～⑥はH30.10月に峡東保健福祉事務所(峡東保健所)が実施した在宅医療の取り組み調査結果

3. 峡東医療圏アクションプランに関連した現況

1) 在宅医療に関すること

<表3>

	峡東医療圏	山梨県	全国
訪問診療を実施している診療所・病院数(在宅患者訪問診療を1日あたり算定した医療機関数)(人口10万対)	16.47	19.95	21.70
訪問診療を受けた患者数(在宅患者訪問診療算定件数)(人口10万対)	5977.84	3506.42	5720.43
介護支援連携指導を実施している診療所・病院数(介護支援連携指導を算定した医療機関数)(人口10万対)	6.41	4.59	3.66
介護支援連携指導を受けた患者数(介護支援連携指導料の算定件数)(人口10万対)	332.06	215.11	240.69

* H27厚生労働省ナショナルデータベース

<表4>死亡場所割合(H26～H28の平均値)

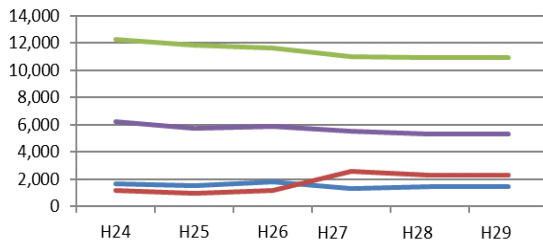
	医療機関	高齢者施設	自宅
山梨市	79.5%	8.0%	12.1%
笛吹市	76.0%	13.2%	12.2%
甲州市	80.3%	8.5%	11.1%
峡東医療圏	78.1%	10.4%	11.9%
山梨県	75.4%	14.1%	12.4%

* 人口動態統計(H26年～28年)

- ・訪問診療を実施している診療所・病院数は、山梨県全体より下回りますが、訪問診療を受けた患者数は上回っています。
- ・また、介護支援連携指導実施医療機関や受けた患者数も県全体より上回っています。
- ・しかし、人口動態統計による死亡場所の割合では、高齢者施設が10.4%、自宅が11.9%、と県全体より下回り、医療機関の割合が高い傾向にあります。
- ・一層の高齢化もふまえ、在宅医療の体制強化と多職種連携の推進が必要です。

2) 救急医療に関すること

<表5> 初期・二次救急医療機関の利用状況推移



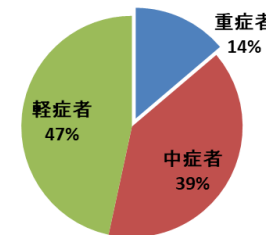
— 初期救急 東山梨 — 初期救急 笛吹
— 二次救急 東山梨(5病院) — 二次救急 笛吹(3病院)

【医務課「救急医療提供体制現況調べ」】

<表6> 救急搬送年齢別内訳の推移

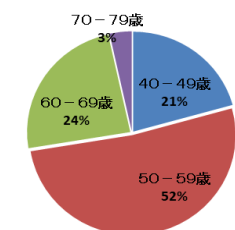
	H26年	H30年
0～9歳	5.0%	6.3%
10～19歳	5.0%	5.4%
20～59歳	26.0%	27.4%
60～79歳	37.0%	27.6%
80歳以上	27.0%	33.3%

図1 峡東地区救急搬送重症度別内訳



【消防本部への救急搬送調査(H30年4月分)】

峡東地域夜間初期救急当番医師の年齢内訳



平成26年12月31日現在

- ・救急医療利用者は、横ばいです。
- ・救急搬送された方の重症度は、軽症者が半数を占める状況にあります。
- ・また、80歳以上の利用者が約3割を占めており、今後この傾向は続くことが予測されています。
- ・従事する医師の高齢化もすすんでいることから、救急医療の適切な利用についての普及啓発と救急医療体制の検討が必要です。

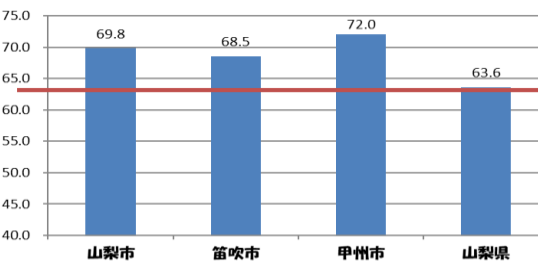
3) 糖尿病の重症化予防に関すること

<表7> 国保の特定健診受診率

	H29年度	H28年度	H27年度(参考)
山梨市	41.2	41.0	40.2
笛吹市	48.3	48.0	47.3
甲州市	57.2	57.5	56.7
山梨県	44.8	43.9	42.6

【山梨県国民健康保険団体連合会：平成30年度版山梨の国保と後期と介護】

図3 平成29年度国保特定健診結果からみたHbA1c有所見者の割合



【KDB：市町村別データH29】

<表8> 平成29年度糖尿病受診率及び新規人工透析導入者数

	国保被保険者 糖尿病受診率(H29)	新規人工透析導入患 者数(H30)
山梨市	5.0	21
笛吹市	5.2	28
甲州市	4.3	15
山梨県	4.8	297

【山梨県国民健康保険団体連合会：平成30年度版山梨の国保と後期と介護、山梨透析研究会統計H30】

- ・国保の特定健診受診率は、3市とも年々上昇傾向にあります。
- ・しかし、健診結果を項目別にみるとHbA1c(ヘモグロビンA1c：血糖コントロールの指標)5.6%以上の有所見者は、3市ともに山梨県全体より割合が高い状況にあり、糖尿病の重症化予防の一層の取り組みが必要です。